

指導行政のポイント

“習熟度別学級編成”の今日的課題

菱村 幸彦

これからの学校教育，とりわけ中学校教育では習熟度別学級編成が課題となると思う。というのは，習熟度別学級編成に必要な条件が整ったからだ。

少人数指導による授業改革

教育改革国民会議報告は，「授業を子どもの立場に立ったわかりやすく効果的なものにする」という提案を掲げた。で，その具体策として，「生活集団と学習集団を区別し，教科によっては少人数や習熟度別学級編成を行う」と提言した。

これを受け，本年3月に「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」の一部改正が行われ，少人数指導のための教員配置が制度化された。

すなわち，従来のチーム・ティーチングの定数措置に加えて，今回あらたに国語，算数（数学），理科などの基本的教科について20人程度の少人数集団による授業が可能となるよう教職員配置の改善が図られたわけである。

少人数指導の導入は，これまでの授業形態に改革をもたらすと思う。その一つとして，中学校では習熟度別学級編成の実施が課題となるのではないか。

周知のように，高校では昭和53年の学習指導要領から習熟度別学級編成が導入された。導入当初は，差別・選別教育だということで激しい批判と反対があったが，今日では高校の習熟度別学級編成は定着した。実は，高校に続いて，中学校でも習熟度別学級編成を考えるべきだということで，平成元年の中学校学習指導要から一項目が加わっている。

ただ，中学校では，高校学習指導要領のように「習熟の程度等に応じた学級の編成」というストレートな言葉ではなく，「習熟の程度に応じた指導など個に応じた指導方法の工夫改善に努めること」とやや

マイルドな表現にとどめてある。

旧文部省は，この項目について習熟度別学級編成も含むと示したが，どうも中学校の場合は高校のように普及していない。

なぜか。一つには，これまで中学校では習熟度別学級編成を行うための条件整備が十分でなかったことが挙げられよう。今回はその条件が整う。基本教科における少人数集団による指導は，習熟度別学級編成の実施をやりやすくする。

いま一つは，心理的要因である。習熟度別学級編成は，能力による差別・選別教育だとする批判がいまだにある。そうした批判を前にして，習熟度別学級編成をためらう心理が働くのだ。

学習の進んだ生徒への対応

生徒にとって，わからない授業をがまんさせられたり，もっと前に進みたいのに足踏みさせられたりするほうが，非教育的ではないのか。個に応じた教育の観点から，戦後の平等主義思想は見直されるべきだと思う。

最近クローズアップされてきた“学習指導要領はミニマム・スタンダード”だという考え方に立てば，学習の進んだ生徒に対する発展的な指導をどうするかということが新たな課題となる。この課題を考えるには，どうしても習熟度別学級編成は避けて通れないだろう。

(ひしむら・ゆきひこ = 国立教育政策研究所名誉所員)

“危機管理”研修テキスト三部作 好評発売中

『求められる危機管理能力』大石勝男編・2310円

『学校の危機管理マニュアル』菱村幸彦編・2310円

『危機管理の法律常識』菱村幸彦編・2310円

本紙はホームページでも閲覧できます

7月の研修図書 教育管理職の夏季グループ研修のテキストとしての採用が増加！ 教育開発研究所刊
2001年校長・教頭・指導主事選考への直前対策講座完結 全7冊一括配本中！

別冊「教職研修」(2001年No.1～7) 合計定価7,500円

研修誌・図書の直接注文，研修会のお申し込みは，無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)